

お粗末な観光道路 客もソッポを向ける

いわき市の観光客は年間三百五万人を突破、年々多くなる一方、ところが観光道路とはばかりといつ轟轟が多い。このため市は道路整備の着写真を作り、関係機関の協力をえて、年次計画で整備することになった。

市商工観光課の調査によると昨年度の観光客は前年度の二百八十五万人から一挙に七十万近くもの三百五十二万人にぼつた。といふ着写真は塩谷崎灯台や照島、いわき舞子浜、勿来の関などを見ながら、国道六号線を除き、ほんどうが未舗装のところの道ばかり。県が失効事業で造った四倉一滑津間の海岸道路は観光道路と呼ばれているものの中央に穴があいているしまつ。四倉から舗装工事をしているが、予算がつかないためいつこにはかどらず、滑津から鹽屋の塩屋崎間の興道も一部しか舗装されていない。平一内郷一管崎一江古一豊岡一平と巡回する片浜線もまだ一割以上が

緑色の草や木が背脊を殺して、つば蜂、アブ、ハマハリ、ハエ等々が夜にかけているのは、虫が家の中に入込んでくる。まるで五月蠅とばかりひつたふうのよがり小さい虫から「ハハ」「すがめ蜂」である。

田口を過ぎても、蝶はワルサイものでその種類もじらぐあげたの相手なのだから。

小さい虫

安田耕一

人間をさむる、血を吸つもの、かみしめる、さあさまである。中には「ゆかり力」のようアリヤリと放歩していくカユイ。また「やぶさ」はまたいた。「やぶさ」はまだいたので、出来出でゆくジエント機のよ

よつてブーンと音でも出しじる

から、ようじ小さい虫でも馬

ソバ、缶詰を盗む

高校生六人組を補導

いわき市水産課は県の出先として、水産振興会議を開いた。この結果、業者も各交通機関から急道を整備してほしいといふ輿論が強く打ちだされた。

いわき市は本県水産業のかなめ組があるが、漁船の新改造、沿岸

漁業の振興、遭難対策などを進

めた。しかし事業費がかなり多いため、一気に整備するとはむずかし

い」とを県に陳情したことにな

った。

いわき市は本県水産業のかなめ組があるが、漁船の新改造、沿岸

漁業の振興、遭難対策などを進

めた。

